

平成 21 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社 オ プ ト ロ ム
代表者名 代表取締役社長 三浦 一博
(コード番号:7824 名証セントレックス)
問合せ先 取締役管理部部長 佐藤 政治
(電話番号 0 2 2 - 3 9 2 - 3 7 1 1)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 5 月 18 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想数値の修正について

(金額の単位:百万円)

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正
(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,393	39	△4	△6	△0.34
今回発表予想(B)	1,195	△42	△83	△77	△4.26
増減額(B-A)	△198	△81	△79	△71	
増減率(%)	△14.2%	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成 21 年3月期第2四半期)	1,654	△74	△113	△170	△10.29

平成 22 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正
(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,980	132	46	42	2.35
今回発表予想(B)	2,871	100	20	24	1.32
増減額(B-A)	△109	△32	△26	△18	
増減率(%)	△3.7%	△24.2%	△56.5%	△42.9%	
(ご参考)前期実績 (平成 21 年3月期)	3,113	△131	△205	△927	△53.20

平成 22 年 3 月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正
(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,362	47	3	2	0.12
今回発表予想(B)	1,169	△34	△59	△68	△3.75
増減額(B-A)	△193	△81	△62	△70	
増減率(%)	△14.2%	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成 21 年3月期第2四半期)	1,648	△55	△93	△147	△8.89

平成 22 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正
(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,874	145	60	56	3.11
今回発表予想(B)	2,825	121	56	24	1.32
増減額(B-A)	△49	△24	△4	△32	
増減率(%)	△1.7%	△16.6%	△6.7%	△57.1%	
(ご参考)前期実績 (平成 21 年3月期)	3,099	△88	△162	△921	△52.88

2. 連結業績予想の修正理由について

当第2四半期連結累計期間において、当社グループは前連結会計年度に引き続き生産効率化による原価低減や販売価格の是正を始めとする諸施策を実施し、事業収益力の強化に取り組みました。

利益面で前年に比べ赤字幅を大きく減らすことができ、一定の成果を出すことができましたが、結果として、売上高は 1,195,779 千円(前年同期比 27.7%減)、営業損失は 42,992 千円(前年同期は営業損失 74,461 千円)、経常損失は 83,450 千円(前年同期は経常損失 113,254 千円)となり、四半期純損失は 77,958 千円(前年同期は四半期純損失 170,072 千円)となりました。

< デジタルコンテンツ事業 >

デジタルコンテンツ事業のうち、CD の販売金額は、主に音楽 CD を始め語学・生涯教育向け等の教材関連 CD(CD-DA) 売上高 413,906 千円(前年同期比 38.0%減)、コンピュータ用ソフトウェアとして使用される複合型 CD(CD-ROM) 売上高 170,329 千円(前年同期比 43.2%減)とインターネット環境の普及や国内 CD 市場の減少傾向等の要因により 584,235 千円(前年同期比 39.6%減)となりました。

また、DVD の販売金額は、TV アニメ共同製作事業への参画等により、TV アニメ関係の売上が安定的に得られましたが、国内 CD 市場の減少により音楽 CD(CD-DA)とセットで販売される特典用 DVD の売上が得られなかったため 506,263 千円(前年同期比 22.2%減)となりました。

利益面においては、前連結会計年度から引続き実施している販売価格の適正化、製造部門におけるコスト低減策の実施効果はありましたが、貸倒懸念債権の発生により販売費及び一般管理費において貸倒引当金繰入額を28,674千円計上した結果、営業利益は29,457千円(前年同期は営業損失24,165千円)となりました。

<環境エネルギー事業>

環境エネルギー事業の売上高は67,392千円(前年同期は5,992千円)となりました。

環境エネルギー事業のうち、バッテリー販売は、鉛蓄電池市場において世界的な金融市場の混乱を背景に、自動車メーカーの減産、自動車ユーザーの消費後退により鉛蓄電池の販売数量は減少しておりますが、国内代理店等の拡販や海外販売の強化により前年同期に比べ大きく伸張しております。また、当第2四半期連結会計期間から新製品として販売開始したCCFL(冷陰極蛍光灯)を用いたE・COOL(CCFL蛍光灯)の販売を開始しております。

利益面においては、新製品E・COOL(CCFL 蛍光灯)の販売を開始しましたが、環境エネルギー事業の販売費用を補えず、営業損失は41,496千円(前年同期は営業損失28,733千円)となりました。

当連結会計年度における通期業績予想の売上高は、デジタルコンテンツ事業2,448百万円と環境エネルギー事業423百万円の合計2,871百万円を見込んでおります。

利益面においては、生産効率化による原価低減や販売価格の是正を始めとする諸施策の実施など、黒字化を目標とした経営合理化計画の推進と新製品E・COOL(CCFL 蛍光灯)販売により、営業利益は100百万円、経常利益20百万円、当期純利益24百万円を見込んでおります。

3. 個別業績予想の修正理由について

連結業績予想の修正理由と同様の理由によるものであります。

以 上

(注) 本資料に記載されている通期業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因により、大きく異なる可能性があります。